

令和5年度 第2回アイデア発表会

文責：岩崎（一新小）、緒方（桜木小）

7月7日（金）の七夕の良き日のアイデア発表会では、熊本市立池上小学校の松元清志郎先生による「すぐできる！子どもの想像力を高められるアイデア集！」、熊本大学教育学部附属小学校の溝上剛道先生による「子どもとともに『学びの入り口』をつくる3つのアイデア」の2つの発表がありました。

池上小学校 松元先生の実践

① 家庭学習にひと工夫を！～漢字編～

おそらくこの学校でもやられている。「漢字ノート」の宿題ですが、ずっと同じやり方でいいのかな。子どもがノートに書くのを嫌がる姿を見たことはありませんか。そんな漢字の宿題にひと工夫を加えた実践を紹介していただきました。

テスト問題を子どもたちが作成する。(ロイロノート)

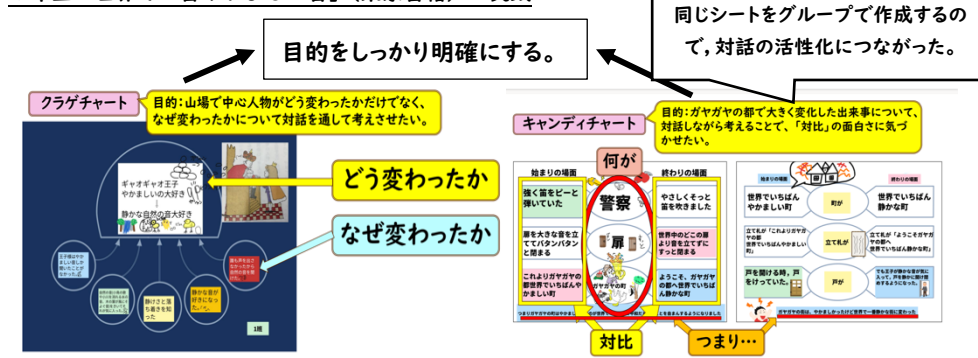
成果として・・・



漢字を書くことも大切！漢字を書ける、覚えるという目的を子どもとともに明確にすることがとても大切。

② 対話的な学びに向けて～思考の可視化～ シンキングツール×共有ノート

子どもたちが対話をしながら思考を整理し、考えを形成させていくかをご実践されました。5年生「世界で一番やかましい音」（東京書籍）の実践



③ 物語の一般化・抽象化

4年生「世界一美しいぼくの村」「世界一美しい村へ帰る」の実践
東京書籍の4年生の学年末の単元です。この物語を通して作者は何を伝えたいのか。子どもたちが物語の終わり方について考える姿が見られました。なぜ物語学ぶのか、もう一度学級の子供たちと考えたいとなりました。松元先生ありがとうございました。

③ 物語文の一般化・抽象化

「筆者の伝えたいことは何か」を考える
「世界一美しいぼくの村」「世界一美しい村へ帰る」
単元末
人生観が広がり、よりよく生きようとする！

熊本大学教育学部附属小学校 溝上先生の実践

「子どもの〇〇の力を身につけるために、どんな言語活動を設定しようか」と頭を悩ませた先生もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。教師が一生懸命考えた言語活動を子どもに提案しても、子どもは微妙な反応…。そんな経験ありませんか。「どんな言語活動を設定するか」から脱却し、「子どもと一緒にどのように言語活動を設定するか」というテーマで、今回溝上先生にご発表いただきました。

① 似ているものを比べる。

3年生「モチモチの木」（東京書籍）の実践

初発の感想からでは、豆太の行動の理由ばかりで豆太の性格にはなかなか目を向けにくい。そこで、今回は「モチモチの木」の中心人物「豆太」を、同じ斎藤隆介さんの作品「火の鳥」の中心人物「アサ」と比べる活動から授業に入られました。2人の中心人物を比較するしかけを作ることで、子どもたちが人物の性格に目を向けさせ、そこから言語活動の設定へとつながっていました。



② 言葉遊びから考える。

1年生「おおきなかぶ」（東京書籍）

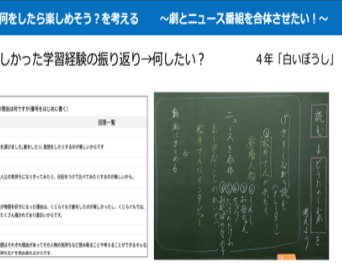
ここでは、かがくい ひろさんの「だるまさんが」でオノマトベに続く動きの言葉を考える活動を設定し、子どもたちに言葉の面白さを体験させられていました。次に、ヨシタケ シンスケさんの「こねてのばして」では、動きの言葉に関連するそこオノマトベを考えるさせる活動を設定し、行動を具体で想像させられていました。子どもたちにオノマトベの面白さを十分に味わわせることで、「おおきなかぶ」にオノマトベをつけた音読劇をするという言語活動を設定へとつながっていました。



③ 何をしたら楽しめそう？を考える。

4年生「白いぼうし」（光村図書）の実践

まず、子どもの学習経験のしっかり振り返る機会をつくり、「どんな学習が自分たちのためになったのか」「どんな学習が楽しかったか」を事前アンケートで把握するとともに、学習経験を想起させられていました。そこから今回の「白いぼうし」をどのように楽しむかを自分たちで考えることで、学習課題をつくるきっかけにされていました。



「教師がどのような言語活動をするか」から「子どもたち」とどのように言語活動を設定するかと、考えるきっかけをいただきました。今後も、子どもたちと学びを楽しむことができるような授業づくりを目指していきたいですね。溝上先生、ご発表ありがとうございました。

今回も非常に学びの多いアイデア発表会となりました。次回は、9月15日（金）予定です。たくさんの先生方のご参加をお待ちしております。 ※8月のアイデア発表会はありません。

◎ご参加された先生方の感想を紹介します。

今回参加させていただき、ありがとうございました。松元先生のご発表も、溝上先生のご発表も多くの示唆をいただきました。お二人とも、子どもたちと楽しみながら授業を作っていることが伺え、素晴らしいと感じました。

ロイロノートは使える環境にないのですが、思考の可視化の手立てを考えていきたいと思いました。また、オノマトペにこだわった言語活動も面白そうだなと思いました。子どもたちが「楽しかった！」と思える活動を共にアイデアを出し合いながら、今後も学んでいきたいです。三宅先生のご発表が聞けなかったのは残念でしたが、また機会があれば幸いです。

※三宅 恵美 先生（西原村立河原小学校）にご発表いただく予定でしたが、今回はご都合により交代いただきました。また機会があればぜひご実践を発表いただきたいと思います。

国語の授業ではいつも悩んでいますので、大変参考になりました。ありがとうございました。

松元先生のご発表で思考ツールの活用は有効だな、と改めて思いました。ロイロは導入されていない地域ですが、別の形で生かしていきたいと思いました。

また、溝上先生の「子供と言語活動を作る」というやり方は是非、参考にさせていただきます。ありがとうございました。

お二人とも具体的な実践を伝えてくださいましたので、大変分かりやすかったです！

本日はありがとうございました。お二人の実践、とても参考になりました。来週から早速、取り入れてみたいと思いました。また、言語活動についてはとても毎回悩むので、その悩みを解決するヒントのタネを頂けたことが非常にありがたかったです。

案内文にあるように、「明日の授業に役立つアイデア満載」のご発表でした。松元先生も、溝上先生も、子どもたちの「～したい」という気持ちを大切にされていて、私も「やってみたい！」と感じました。これからの授業づくりに生かしていきます。

改めて、松元先生、溝上先生ご発表いただきありがとうございました。

略儀ながら、書面をもちまして発表のまとめとお礼のあいさつとさせていただきます。 県小国研 編集部